

「やめる・やめさせる方法」知りたい

さらなる啓発と相談サービス拡充の必要性が浮き彫りに

ぱちんこ依存問題 電話相談 事業報告書

ぱちんこ依存問題解決の支援を行うリカバリーサポート・ネットワーク(RSN、西村直之代表)は、2006年度・2007年度の電話相談事業をまとめた。それによると、06年度、07年度で、全国から寄せられた相談件数が1835件(間違い・無言電話252件を含む)となった。相談内容は「やめる方法」「やめさせる方法」が圧倒的に多かった。

相談機関サービス 必要性を示唆

RSNでは、2006年4月から電話相談事業を開始。2006年度は989件、2007年度は846件と合計で1835件の電話が寄せられた。地域別で見ると、06、07年度トータルで最も電話件数が多かったのは沖縄(163件)で、次いで大

阪(151件)、東京(109件)、神奈川(106件)と続く。メディアで電話相談事業の記事を紹介された地域や店舗内でのポスター掲示に積極的な店舗が多い地域からの相談が上位を占めた。

電話をかけてきた人の割合は、依存問題を抱える「本人」からの電話はほぼ同数。対象者の男女比は、男性が約77%、女性が

約23%だった。電話をかけてきた人と対象者は、30代が最も多く、依存問題が比較的若い世代を中心に広がっていると推測した。また、電話をかけてきた人、対象者ともに10代から90代まで、広い年齢層を形成している。日常娯楽として遊技を楽しむ年齢層は幅が広く、いずれの世代でも依存問題が起こりうる可能性を示唆した。

RSNに電話する前に、どこかの相談機関に電話をした人は約2割で、8割近く(間違い・無言を含む)は相談機関への電話経験が無い。受けた電話では、21%が話しただけで終了し、71%は他の相談機関を紹介している(間違い・無言8%)。相談者のニーズがはっきりしなかったり、ニーズに合う相談機関が電話を

かけてきた人の居住地域になかったりと、十分な対応ができていないまま終了してしまうこともあり、パチンコ依存問題の啓発の必要性、相談機関サービスの必要性が改めて浮き彫りになった。

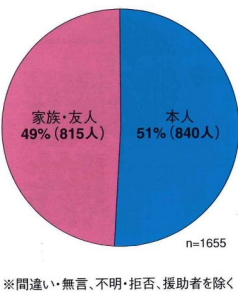
4人に1人が 10年以上問題持続

対象者の約55%は借金を抱えている。借金を繰り返す人から、数万円カードローンでキャッシングしている人までさまざま。相談内容は、やめる方法、やめさせる方法が圧倒的に多い。借金の返済方法よりも、どういったパチンコに行かずにいられたかといった相談内容がほとんどで、「やめられないので、地元で

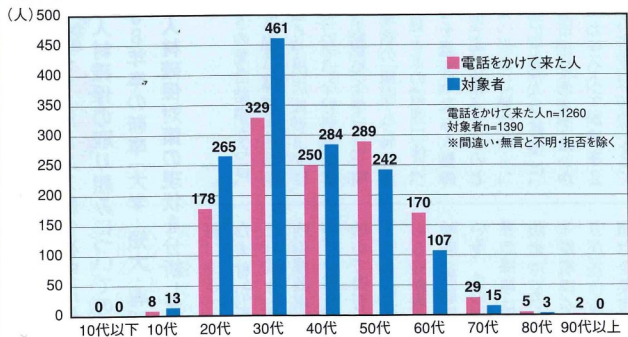
地域別の電話相談件数(2006年度~2007年度総計)

1位	沖縄	163	11位	愛知	42	21位	山口	22	30位	鳥根	13	40位	高知	7
2位	大阪	151	12位	京都	42	22位	宮崎	21	31位	福島	12	41位	山形	5
3位	東京	109	13位	宮城	40	23位	秋田	18	32位	三重	12	42位	富山	5
4位	神奈川	106	14位	大分	38	24位	茨城	18	33位	香川	12	43位	愛媛	5
5位	福岡	104	15位	熊本	35	25位	岡山	18	34位	佐賀	12	44位	鳥取	3
6位	北海道	76	16位	広島	33	26位	群馬	17	35位	岐阜	11	45位	山梨	2
7位	埼玉	67	17位	鹿児島	25	27位	新潟	17	36位	長崎	9	46位	福井	1
8位	兵庫	63	18位	岩手	24	28位	長野	15	37位	石川	8	47位	国外	1
9位	静岡	61	19位	奈良	24	29位	和歌山	15	38位	滋賀	8	不明	拒否	252
10位	千葉	50	20位	青森	23	30位	栃木	13	39位	徳島	7	合計		1835

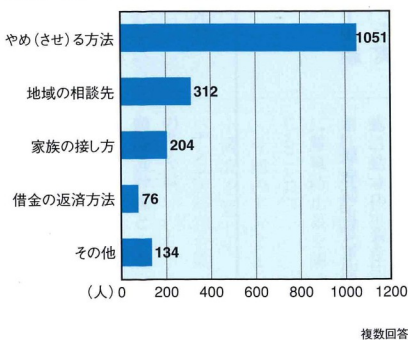
電話をかけてきた人の割合
(2006年度~2007年度総計)



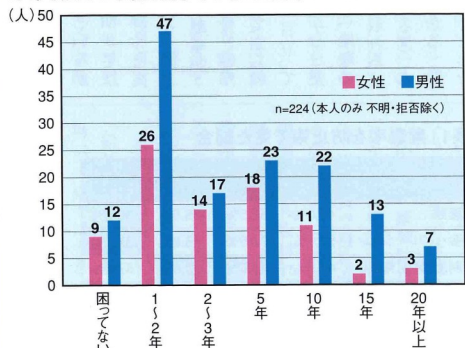
電話をかけて来た人と対象者の年齢(2006年度~2007年度総計)



相談内容 知りたい内容(2006年度~2007年度総計)



のめり込みが問題化してからの期間(2007年度)



相談できる場所を教えてほしい、「のめり込んでいる家族の対応に困り果てた」という人も多くいる。

パチンコにのめりこんでいる本人に「パチンコを始めた時期」を聞いたところ、男性は10代、20代が多い。女性は20代が多いものの、開始年齢は全年代層に及んでいる。男女ともに、早期にぱちんこをやり始めた人に依存問題が生じやすい可能性が考えられる。パチンコをやりはじめて、のめり込みが問題化した時期については、1、2年と回答した人が、男女共に全体の約33%を占めた(2007年度のみ)。10年以上長期的に問題化しているケースは、男性が約30%、女性が約19%、全体では約26%を占めた。一旦依存問題が生じると、長期に渡り依存問題が持続する危険性があることが示された。

問題を持つ本人がホール内ボスターを経由で相談につながった件数は、1835件中462件であった。

◇電話相談 050-3541-6422
常時3名の相談員で対応。受付は平日(月~金)の午前10時から午後4時まで。